





元年
金

宣正五年正月相日

栗鈴

關

開白努力方公

一五三万

右空身公

方公

左筆者事存御改公

御筆者事存御改公

也有公

有公

傳美之物を拂ひて恐はる事無願通

忠山

傳美之物を拂ひて恐はる事無願通

也有公

也有公

也有公

也有公

錄所用事公

御筆者事存御改公

也有公

也有公

也有公

也有公

一筆者事存御改公

也有公

也有公

也有公

也有公

也有公

也有公

也有公

一筆者事存御改公

也有公

寛政二年己卯

五月小

相目三和夫請

千德万福奉書

一四方稱以下滿額先種坐定方頭
次第毛口一方主地已卜滿額全四方
并上と拂ひ治行勢以下被殊如
例
次第毛口此次且耕

一草種方勢降定全毛口三事され
一寒頭久者子及早中生被也
又毛口以証之物也

一商方上人耕種不
一毛口也

一小物也前
以毛口之毛口也

一玄藏經二甲也

一吉子之三麻木一也
前也拂毛口以毛口也

人言亦不平つとも
一全對近事て作所
一傳聞初事て海歸事中酒也濱門
一治定元年正月立
一中和村山國神事半岁奉獻於
總主三番御前自成主嘗
道主政局而役ノル故御供之稽
事ある上御成　時御酒湯の湯主事
御御酒湯の湯主事
一當御酒湯の湯主事
一りも子を海門御用事御酒湯
一れ御酒湯御用事御酒湯
一が御酒湯御用事御酒湯
一御酒湯御用事御酒湯
一御酒湯御用事御酒湯
一院酒湯御用事御酒湯
一事あややまことと列人トシ御酒湯
一寔酒湯御酒湯
一寔酒湯御酒湯

四六

一 おわは
夜候はまく 泊泊相成人 三筋 鶴雲
西愁は暮る 本感心 畏焉雷元次 梅葉草
久延壽雲やめ 舞鶴 梅空 あり
吉内 三四
志乃
志乃

二月辰ノ所
小内也前
五内也前
清賀は松木 付易荷難取難り是れ
一字れは伸 朝の丸一押ねらど
子と生子と云ふ 有病而多氣
あゆ中平天 甘苦本 云々 云々
中利和也向 せゆり沙波 陰陽堂

四七

國朝
一 そりかく食事耳其傍邊食事
八代にて内大臣即ち御内侍御内侍御内侍御内侍
他取用と一袖門
一 喜多川源種一板一枚行上衣
師達原又新種一板行上衣
宿泊も三上卯ノ内ノ内ノ内ノ内ノ内ノ内ノ内ノ内
じゆる水着

二 白石三事ナシ多岐多岐
四脚筒
一 腹用事利神より爲せし事
足のてわゆる陽道を難波に移す
えど江戸を出る

四回而半舟

リレルを主とし御重りに毛監盤舟
干盤主と為め不入りに板貞御事前也
草工作計二体三面也
一ノ月被事院業の一部事主中通御方
二種不作竹脚御事主と
油桶氣車也之處事中通御事
鰐脚桶也又て細作合也而多忙
一ノ月被事院業の一部事主中通御事
一ノ月被事院業の一部事主中通御事

一ノ月被事

者丁奉舟外也と甚
より以ひと古法内はるか所學也
万山都希舟名前也事通て私假し
幸り向と希も立て主る力奉山此向
事奉事事主舟主事也古事主
物と事主舟主事也古事主
此事主舟主事也古事主

附りす前車移と車酒一蓋次
 や其の易工作者ナニニ事也
 お車室之全多移置後もと被
 方と立二種子車夫多事
 車夫多移置也多事車夫多事
 あまに立ちてうらうらと移り
 て立きし車夫也多事車夫多事
 一而前車室全酒お車室却く部
 頭に車室安祥移跡車室田移
 移手前車室工をせ次元因る
 三車室の車室工をめぐれ

次第の車室入車室全酒車室わ
 から移置されし車室車室アリ
 本車室の車室を車室次第の車室
 帰すア忠而ト止す。大車室酒
 全車室の車室を車室の酒移置車室
 車室車室の車室を車室の酒
 車室車室の車室を車室の酒

例の車室
 一社蔵祐佐酒一服都知
 祇蔵酒一服都知
 一社蔵祐佐酒一服都知

一 情作媛利布ミタガルヒ トサ人也
 一 色一弟アシタツ 三郎ミツロウ 五
 一 駄タラ 沖カミ 真マサニ 佐サ 五
 一 直マタニ 久クニ 井イ 間マナ 九
 一 有マサニ 伊イ 五
 一 三師ミツシ 鳥トリ 佐那サナ 三
 一 あらアラ もモ 五
 一 有マサニ 伊イ 五

七日丙午
 中ミ わワ 痘モト 人ヒト 美ミ 朝アサ 五
 神ミ

八日庚午
 三ミ りリ 三ミ 五ゴ 之ノ 事モノ 三ミ 五ゴ
 一 仁ミ 五ゴ 二ニ 五ゴ 事モノ 五ゴ 五ゴ
 一 事モノ

一 有マサニ 三ミ 驚ハラ 五ゴ 有マサニ 三ミ 五ゴ
 一 有マサニ 三ミ 五ゴ 有マサニ 三ミ 五ゴ
 一 有マサニ 三ミ 五ゴ 有マサニ 三ミ 五ゴ
 一 有マサニ 三ミ 五ゴ 有マサニ 三ミ 五ゴ

多タダ 师シ 五ゴ 五ゴ

九日重慶所望より

江原道

一
佛頂寺宿泊
中刻り事都力山
方回り下と酒此處ま
主食は酒下す御子
あれ生或一言此處ま
也

帷幕中未だ酒未拂方の傍
筆書易ク刻月夜やあそニアリ
之ナリナリ丁度食酒一處を官宿
物食う事多と可也
一
于主食は酒此處ま
生主酒

古事記
三言信早酒事様勿人りれ
只此と有事と不動寺を望む
相無て林中保半別人

但も高麗より生三竹家主ひえ
一の江面利沾松ら云間
一而近御下三事事体行本あ朝事主宣
わね事主ヒミツア羅中並松平七引
れり

一三節事主井井田御才主四重事

青毛舟
夕海山下御
一長柄り主脚毛主事事主四
一布わ
一り文走り主事事主
一ト事主守也一而主事事主
一在任事主行同也
一古市力工事主事主事主
れ吉向長井主事事主行同也

吉日里の所
又上馬而歸
身に事事を極^シ去物^ニ
り多^シ不^可知^ルと定^ムト^ニ初^モ身^を去^行
方^正しに正^ヒ三^二ニ落^ス身^を拂^ム今^モ
一年^ノ利^程三^五月^ノかあ義^ハ後^{ナカ}か^ク望^ム
去^ム身^を刻^ミ少^シ而^シ極^シ而^シ而^シ
極^シせりは^シ身^を一^度と身^を拂^ムと覺^ム
身^を拂^ム始^エニ^ニ身^を拂^ムす^ニ身^を拂^ムと^シ
身^を拂^ム及^ム及^ム而^シ而^シ而^シ

吉日雨^レシヤ
名^シと^シ事^レ被^ム取^ム事^レ有^ムト^シ來^ム
往^ム來^ム在^ム也^シ是^シ正^モ事^レ有^ムト^シ會^ム
之^シ而^シト^シニ^カ生^ム事^レ有^ムト^シ來^ム
め^リゆ^ム

一
 每日とて御湯、より傍十五日至る
 二 直福寺へ参りて御高坐を有す所多
 三 湯寺へ参りて御高坐を有す所多
 記念ノ御高坐を有す所多
 露天にて御湯を浴す
 一 上衣を脱ぎて浴す
 二 着物を脱ぎて浴す
 三 着物を脱ぎて浴す
 四 着物を脱ぎて浴す
 五 着物を脱ぎて浴す
 六 着物を脱ぎて浴す
 七 着物を脱ぎて浴す
 八 着物を脱ぎて浴す
 九 着物を脱ぎて浴す
 一
 二
 三
 三社堂より浴す

一
 行院へ参りて御湯を浴す
 二
 古事記下房寺へ参りて御湯を浴す
 三
 佐神寺へ参りて御湯を浴す
 四
 ト
 五
 原

一より腰てあを西到利はる南
 朝及早事ニニ事當處を爲物と云
 サララの印也
 一考有者之を宣傳を主と爲儀
 が所、所、所、所、所、所、所、所、所
 カルヤニモテモ合
 一土百人千矛
 王蜀助れ御内閣事也
 一物留支ムリスヘル上事都ミテ
 事ナシモト
 一船形日本ノ船也
 一主物也初也最也國事也
 一王室被也相也經也也候也
 行也主也候也候也主也行也
 船本內極也高也弱也行也
 不空也事院也向也主也也
 事院也御也主也主也主也也

四六

一
相近御奉長者子すそも薛と
國々土歳正れ地主と
いひ市（注付下）の今月
五動字ソウル
カ幕内為カ私云達也景

一
吉自己東リ本面下見有舟
聲よえん興りゆきまづ川
松雲行后にせよ正月ノクニ
日野方抱二布 柳入
柳サ方抱二布 柳道り聲不
口真弓方抱二布 柳道り聲不
之弓口方抱二布 柳道り聲不
之弓口方抱二布 柳道り聲不
之弓口方抱二布 柳道り聲不

まよひすの林にゆくわ筋
うすむきせりとひ能弓道
あわゆめの取能手より下
初音うかがひての内侍はま事
喜びうかがひての内侍はま事
もとをえんてわらうと三日三日
也えんてわらうと三日三日
ふとくわらうと三日三日
上横引ぬまに次
詔方きとまわ松葉もくじ
一
原あらそてのや跡もと
たまむらの處物とすりて
一
自宴幸齋教誨本草
一
玉わらうね次能代城と名
古白翁
一
往深え島中菊より是空すと
歌りかへしヨリノは聞足り
病ゆゆかうかへし人首湯鶴
一
と爲たる能代下今事

大日唐舟

多事有りけり御心名仕也十石は拂取
すよりて此にかくやえりあり一石ゆ
トカラバおも入希也早速に

今事やアリテ三事御心こも一氣

春日馬回極シモ酒云済しニ
モ有事有事あつまふ事おは高事
中はアリ御方事種では御事事事事
御方事事事事事事事事事事事事事事

五事もわからず甚

二

五日事而崩
名い海に是は事の母也
伊方一國の事へ次第に三死也
事竹子木之前也
也つ至ゆ作竹厄もじ力
作下とす事也之を南平力
吉麻也言而八十又六有也
と而佛今事也
五歲也此行取多也
也也

一初金而て清生事也
而事也之也云之
事也物井也也也
王上事也事也
極也事也事也
事也事也事也

而陽也事也事也事也
也事也事也事也
事也事也事也事也

御子

脇元

り野事も出でゆる。まわる極
立てぬ竹の柱桟は木不
なき書らす。竹の宿えが土間も
よしと。五の内殿は非淺見
る事。直連は、
うも。のむ。ましと。三の室
本物あ。伊勢の竹の
心通ひ。是れ伊勢の竹の
御子東久をあ。

道主、入里を甚
月也。多子。種類年もも
井の水は木もも
生年房。生年房。同と
江源。河源。源流。源流。生年房と
也。坂向。同。一
重賣在。非浅見。是れ。源流。之を

廿日立承候
詔閣門思之宿直主膳酒師
久須賀貢財行水
高防少司馬之志御
酒紅酒而也事之酒
家系仙道口付此空一子也事之

廿日立承候
詔閣門思之宿直主膳酒師
少司馬之志御
高防少司馬之志御
酒紅酒而也事之酒
家系仙道口付此空一子也事之

四二二

二

いあらへりねむか大根
うひ一あひ草毛毛下りまく
足平て五日
中れぬれ
カキ支給元門にてまえにゆる重と
古板山
カキ山の事
あ動るは止ゆる地
一役定本

廿三日と
松井院垂井清第 檜家高
吉
言葉草毛毛下り
山中
山中
松波十坂水軍

若國一四萬石

近二店取手、重酒本家、以多集

あ行ゆきすす而方不まち

一切近附ゆま

地亦少く止め

行ゆき

一四又の長元

、

者有丁卯内附

相贈銀力道元高瀬主め

一王清は木つ江サアヌサヌアヌ

脚直合

一北上生根と通す、白銀主、早口附

作次はえア今木とカガリ白井

吉人富士無上氣主事主也

一四又の四國司勢も言

而陣方山下切る。つは立毛の
カジヒツヒツとよ三和國。勝山より
一通り。のり。三間ほや。ええ。
廿二日辰未。の。和氣下
お福氏云。月見へこみ。首行。行
五物手。少。此中飯と妻類。小。五
血行。よ。市。酒。四。品。花方。飯。も。樂
佈。主。玉。其。が。圓石。五。日。一。西行前
一文。深。走。三。不。良。之。
一。圓石。前。布。乃。五。行。被。尼。菴。う。

牛角色麻
吉。上。東。朝。三。玄。院。極。一。常
経。一。柿。一。通。福。山。人。極。常
柿。一。通。常
波。山。水。山。山。柿。一。通。常
柿。五。下。波。山。大。寒。之。
柿。非。山。有。柿。大。寒。之。
柿。非。山。有。柿。大。寒。之。

此後の事は、あらわし移闇するよ
二三の事は、おもむく
一か月の事は、おもむく
一月の事は、おもむく
一月の事は、おもむく
一月の事は、おもむく
一月の事は、おもむく
一月の事は、おもむく

一相馬四箇所の事は、おもむく
一相馬四箇所の事は、おもむく
一相馬四箇所の事は、おもむく

文自序年譜
幕張元和元年九月
一言多々年、幕立工事
一言多々年、幕立工事
一言多々年、幕立工事
一言多々年、幕立工事
一言多々年、幕立工事

一
往來院西入馬國事と有る方
より下西國事や因タミ西之事
よりトト上る事多矣。柳家軍
より其事も口言ひ一平近江守
カモト吉林の宿今りり其事
近江守、りり其事
一
五
四
三
二
一

九日主より以て
廢事に向印跡

一
東林云事より食田主云去
主之えモ松り出る事御前
の内様也之ゆく事
主事者云事本東西ノ事
所人滿場皆云之れ申下トト
主事者云之も寛全ラ事毛が
主事者云事毛がトト毛

と施力す事よりは
日便と一矢もあれば
考へ一矢の國
じ竹の矢を詰國
か西弓の石早射
を初めニ止

一雨野方キ小川がえり加蘇若多也
沿え人著森よ御利前入念
室アリ并雨野弓射事モ此地と
弓射事モ此地と

44
28

二月大

初日主事并

一宿宿方宿事書

一宿宿方宿事書
一宿宿方宿事書

一普慶正食毛不動尊

自孫子之行在、上玉復方

一東林寺不動尊

移居大之寺、參拜

一計策、中作

一計策、中作

一傳教院

一少弱體弱、未力能走、更鹿金
中成方一多向中所御移御、御足
不收氣任、甘之空室御御事御方
ニ至る、是處後、又御御事御方
御御事御方

二日正月序

庚午年十二月三日信。但一書移去。
人乃半上手。所一書至三日。半上手。
一書。信。信。信。信。信。信。信。信。信。
不。方。有。動。近。往。往。往。往。往。往。
日。子。丁。万。而。而。而。而。而。而。而。
半。分。の。而。而。而。而。而。而。而。
子。子。子。子。子。子。子。子。子。子。
國。國。國。國。國。國。國。國。國。國。
半。半。半。半。半。半。半。半。半。半。
半。半。半。半。半。半。半。半。半。半。

内。内。内。内。内。内。内。内。内。内。

一初。男。而。血。鳥。國。板。也。下。万。
大。事。事。事。事。事。事。事。事。事。事。
少。少。少。少。少。少。少。少。少。少。
少。少。少。少。少。少。少。少。少。少。
少。少。少。少。少。少。少。少。少。少。
少。少。少。少。少。少。少。少。少。少。
少。少。少。少。少。少。少。少。少。少。

初ニヤヘヌ福よ可シ也古事
ナリトニホヤセラ初事アリ
ミ高乃也アヌトホシテ速モ
元日付シタリテ
梅ノ花セラヒ松立ノム
而前村也高麗瓦歌古波
と一盤

一酒持手四多え主事候

音
自是ノ所
しとわ古事アヌテラシ多想か
五事アヌ事可シニテ森林同ニ能
中高ノ事モ初ルルサシ可
音湯印シテ此事シテ
一物れ沙而日本也同也ト
はまゆシテ浦空音拂印上
の事不計音ト連源古
古今う浦スナ吉い源也之

いはあひのこわいやさを事
にまほり入も西國も
請取 勅内酒蔵物事

合松力多之
在朝酒造近且五浦酒
而取、此は

一
安志二千五百引
都主毛利元吉向方多
一
主酒主毛利元吉向方多

一
物主毛利元吉向方多
ヤシ國井不五浦酒
而酒主毛利元吉向方多

留し氣舟

所向の内古事記本油隨之
以下未を承ノ二千頭印教拂
と同乞馬付ゆり至り方
拂止と枝拂す以也國日京
世上と同矣乞川高國傳
二毛事半圓井而津下弓松也
に圓轂一弓弓印以作四
一毛動之ゆる迄云より奉
事奉あり候

事有アハヘテシヤアモモニ
セシテ御小宿ト
不毛死罪御引クル私モ
リヨモトスル内勤空モ
テテ内勤シト付ムシタ初シムト一
物アハ御子モ不務
事御子モ不務
事御子モ不務

44
33

よのせをすく
波浪すらあはれ
もやせ
いとまかせをすく
波浪すらあはれ

首
因而すく
身あらぬ
一
而と身あらぬ
初めおれども三
り走る所、ゆき流れる所
も、うしろ

花に葉すく
身あらぬ
和葉すく
身あらぬ
波浪すく
身あらぬ
官田
身あらぬ
上下すく
身あらぬ
一
身あらぬ
古事記すく
身あらぬ

育工をゆく

物語り来るの有りて
物語り有りてす御くおもゆるがゆく
小品にてて御方の有り十物事に

一
物語りとて主ある物事に依りて是を
物語りて是を能く

一
七首や眞面目ある利害毫端に差し甚る
あらあらあらえ一物語り御はる上豆野
ちよけいせきう吉乃はの二三事
大おおきな五事は吉乃はの事
三事ゆきをははれ
本ほんのり人三事やはれ
二事ゆきをはれり本ほんの
一物語り御はる語云者月大日本事の事
立御うま御お生れ事罪りれ

事あくま先事也。此一ノ御み合ひあり。
付モハ今ト食あれ又飯死多矣。
リ物もは食施引テテニラニ
ゆ出よ。而以シトスミ品益
えも体シ。引シトスミ初作目云
同前。一田代。而居り。而之
食リ。元文立土安リ。而之
腰。而之。而之。而之。而之。而之。
十五石。毛利。下。而之。而之。而之。

ウカ。店上。而之。而之。而之。而之。

一
有。官。軍。軍。軍。軍。軍。軍。軍。
南。三。軍。軍。軍。軍。軍。軍。軍。
院。院。院。院。院。院。院。院。院。
主。主。主。主。主。主。主。主。主。
弓。弓。弓。弓。弓。弓。弓。弓。弓。
弓。弓。弓。弓。弓。弓。弓。弓。弓。
弓。弓。弓。弓。弓。弓。弓。弓。弓。
弓。弓。弓。弓。弓。弓。弓。弓。弓。

一 佐喜前精樂りとぞええ
二 作合にあらすみせん
三 清陰秋の聲をうるさく

食事はやれりまくらを反そえ
おゆえらえりての御事御火加の二行
一玉串内けり

一 拠支名と詠えり。松原修業三左左
二 入門はすか
一 立玉の場を立ヒ

九日度辰舟
一 あるもつと新中歌
一 事多子の二節を三重経中身
一 喜び事多きよすすむ一字り惜しき事
一 首子彈くと門わ
一 陽樂想ひあれ。松原修業
一 郡都御批於立ヒ。一字くもたむ
一 併氣の舟。以是度今之早

あらうる事とす御　こののまゝえ
よく考へてさうとすを
叶ふ事すかと申す
せしむてかがよし
下りゆき
柳河

柳河

神　上御ツミれどりは御主御
ひくに立ちてうるおひの
一里西行す事ゆ候トモお哉高
方うかりゆきまじらヒニ

古事記二屏
事ありて云々同言
まみる事りたびに國の之御前事も
事ありて御事も御事も御事も
君の事も御事も御事も御事も
立切アドリカガレ
立切アドリカガレ
古池の事も事も事も事も
全情ひがほく漢使ひ
久留門院も久留門院も
知大主御主御主御主御主御主御主

御内事多云々。カタアシ
不花正爵也。古ニ生キテ。トト
近江ノ余久。トア方國ニ。中
之少く。海道。故不以。以も事。至。中
西行。故守。守。延。年。時。二。殊。教。ら
ニ。下。高。郡。州。有。延。國。民。之。不。と
元。治。清。太。延。院。一。も。義。利。也。

記

正爵

古事記

馬刺

花道。主事。後。モ。リ。カ

平政

三。厚。主事。國。典。舊。美。院。
仓库。心。然。都。智。

一。力。新。官。出。往。之。事。と。ミ
入。了。上。下。放。向。而。行。之。下。上。之。刑。
自。有。之。之。移。院。下。り。下。の。精。
事。書。下。外。主。古。下。主。事。到。到。内。
高。官。引。之。之。書。下。傳。多。
一。不。言。是。事。直。病。也。而。書。下。傳。多。
三。レ。リ。ナ。前。病。也。而。書。下。傳。多。

主相若折下外及于人全し

旨

也于存

勿逢門前

全般

回り

一

利文鳥口

め取

所

一

家美佛

東極一眼

之

一

西和京

精進

也

一

大化年

所

一

名作舟

前中半

也

一

西恩入石

西廣法程

又

一

吉首

一

家美佛

事古修比

一

三福中め

法事

一

柳葉大士

事

一

其八中

事

一

大藏院

事

一

日宗

事

土日其事は常よりゆく所也
之處實に手をせざる事多
は其處也

一一一
長田吉吉本多の居所上
海面のあはれありて
頃方到向月赤中野森白津
多か神主(松籬)三井の松
安らか元次やもとみの候云
主翁所在不至方感召乃事
らふるるりとりせよ世上也

あ向まわば候事無事
玄済被官事無れりし
川もすすむ大河若鹿ノ下
人坐て曰り志猪多人も多
えだらうる爲づれりし
名也は既(生)病ち下を続
事わらひを承る事御子江下を続
えを西仰され往行れどもも
は其處へ近づけり入る事無事
あれ

四四

一也事す候ふ上兩名和ら飛仰ぐ而
ノリ清三

士旨

辰時内に事候て高麗傳多矣
中下りるゝと仰るて之程にて一宿れ
ゆ候るを以て次に北上にて

石全高麗事候て黒木がて召す
初モタルニ宿す行見上船と湯浸

モ事候るを事候す

一語のト向くに力母治より文也
めふもせりを清三

一り二言ほんやうすり今下也地
も見す四是用事候事方を多く

一堅白便りに
一ト事士都生してか宣下せし

44
42

而曰里園博弄

而曰里園博弄

子精多之有小者也

一力舊學少也沒漏尤無上江上打也

一主樂少也出師歌

一主樂少也出師歌

支道直口解

一主樂少也出師歌

以利孔利也

一主樂少也出師歌

一主樂少也出師歌

花見事は晴明、用事やこま事を
清め、三者合意。

一力主より言えず、酒膳をもてて門を
入る者多く、人あれば其事あり。又家業、
生計、お勤めの臣、又下士の如き。
がくのれども、御内侍の如き、山あれば
くも陽満して、名はりとて、御内侍
の御制に、おもろいとて、ゆと湯を
飲み及候ぬ事も、

一古の御室より、三丘主事の合
一力主より、角の扇子の手をもてて、
吊る

土官、
一事あらば、心に、手をもてて、
事あらば、心に、手をもてて、
事あらば、心に、手をもてて、

一
事
利
往
來
首
代
い
か
と
中
十
と
相
改
用
代
は
通
用
物
に
使
て
ま
す
と
ま
る
よ
う
に
か
れ
や
わ
く

吉
田
次
第
序
の
本
道
を
重
ね
て
あ
ま
上
り
う
ん
か
移
れ
ま
し
め
道
を
す
れ
ど
よ
り
ゆ
く
や
ま
と
わ
ら
と

45

66

大、自是ノ事

御事ハ云々を詣け等も元亨

人ニテ、又免免等の處は車前

大奇度真
昌義也均之也
至十器印之

廿四事印
上ノれ事印
宣サフシテ下ノ事印

廿四事印
上ノれ事印
宣サフシテ下ノ事印
廿四事印
上ノれ事印
宣サフシテ下ノ事印
廿四事印
上ノれ事印
宣サフシテ下ノ事印

廿四事印

都門に痛生治て西朝に向ひす。神官
事われ。宣下ゆねりうか二重紙
内也。宣下上より行上而左也。奇
度えこめり。之難更に往來。往來
清風。上相経風也。

サニトアリ
一
シテ
カトウル

一 満面笑れ印と號を申す中北故人安政
一 中北は行氣の姓也
一 その姓事中北下達と号す御物と書
一 之に満面笑れ印と號を申す中北
一 信より言ふ如く中北は中北義成之
一 怪一松上吉而行之

44

45

馬鹿事文老めりひがね
宣傳傍告ゆるを取立五五
一ノ二ノレセ

文老ひれ背向刺薙毛
傳説と内院江底穴古布御也
大手引御也下地也向背と
長手集落三毛也

因有三事都向尊意川山市多
トニテ一社子ひきうちうるえ五宿
アリトシ専用之御中以御事
近處御作中以御事
軍事也お徳三事御三事御上地の事
因あくせく御うるえ御事御上地の事
中事御事御事御事御事御事御事
至る三事御事御事御事御事御事

左背あ形不^リ多^リ

文祐^{ムツヨ}を多^リ

松^{マツ}を多^リ

行^{ハシ}は^{ハシ}を多^リ

立^{タチ}を多^リ

日^ヒを多^リ

月^{ヅキ}を多^リ

星^{ヒトツ}を多^リ

月^{ヒトツ}を多^リ

日^ヒを多^リ

月^ヒを多^リ

日^ヒを多^リ

且物事にあらうとおもひだす

三三同右

字行房

前了

留まつて下方の神社、向こうの手す

因方の手すをあさへひのりの事は、
ありて候事せむ。お江奴が、
因方の事都御寺す。道が、
立ちて瓦子の行風行りやう年
そら手せしとけり。且物事

口回さる。あ性す。お江奴
猪飼や。松浦也に。常お前所
因方の事都御寺す。
行風行りやう年そら手せしとけり。
猪飼や。常お前所
猪飼や。常お前所
猪飼や。常お前所
猪飼や。常お前所

一三傳ひぬわ御中

二五處所中より少御主は事と

三三處所中より少御主は事と

四少御主は事と

五少御主は事と

六少御主は事と

七少御主は事と

八少御主は事と

九少御主は事と

一〇少御主は事と

一一少御主は事と

一二少御主は事と

一三少御主は事と

一四少御主は事と

一五少御主は事と

一六少御主は事と

一七少御主は事と

一八少御主は事と

一九少御主は事と

後半の御事

一四

一五

高麗事作言方主國
朝方主國處處處處處
主國處處處處處處處
國處處處處處處處處
國處處處處處處處處

國處處處處處處處處
國處處處處處處處處

國處處處處處處處處

國處處處處處處處處
國處處處處處處處處
國處處處處處處處處
國處處處處處處處處

國處處處處處處處處
國處處處處處處處處
國處處處處處處處處
國處處處處處處處處
國處處處處處處處處
國處處處處處處處處

國處處處處處處處處
國處處處處處處處處
國處處處處處處處處
國處處處處處處處處
國處處處處處處處處
國處處處處處處處處

集大和上寺三井寺山門入行
作院寺事中望寺山門向寺
門院行中

有内
和やかの御子年
伊豆ノカタ和二郎

御子一郎か源義空
下人と右ての義元

因寺下平市末松山西面
寺山門行中

赤松義空和小國行中
寺山門行中

源子み仰之國のれんとくらふ源空ねり
事山門行中
西門行中
因寺下平市末松山西面
寺山門行中

源子み仰之國のれんとくらふ源空ねり
事山門行中
西門行中
因寺下平市末松山西面
寺山門行中

國寺下平市末松山西面

國寺下平市末松山西面
寺山門行中

國寺下平市末松山西面

すまかとよ多喜川鹿乃氏より泥中病
の爲て之を立候事大本向いに居候事也
同士おや上沈行らるて、やむち仕下あ備
事事而も病おれき事、又、沙門等行
て御申ゆる事、御申ゆる事、御申ゆる事
れ候事と云ふ事、御申ゆる事、御申ゆる事
御申ゆる事、御申ゆる事、御申ゆる事
御申ゆる事、御申ゆる事、御申ゆる事

青方の事體の國なりの事生々之矣
多不吉

同ナ日亦同名者即ち吉田良忠もよき事
同志士高門行義高門清行等五郎也

同サリ多喜一社を取次サナリ
同里方處子一ノくねどもナリ

同サリ多喜一社を取次サナリ
同里方處子一ノくねどもナリ

同サリ多喜一社を取次サナリ
同里方處子一ノくねどもナリ

同サリ多喜一社を取次サナリ
同里方處子一ノくねどもナリ

同サリ多喜一社を取次サナリ
同里方處子一ノくねどもナリ

國事行持は當初あつて在り
主を傷めしもせぬ方アシタニと
國事云國事クニモノ也といふ所成る
に其事アシタニは如何の所作立非得
ト有事アシタニ有事

44
57

け新本事力満じる也。申付
却け加賀人間云布告をも
即往下と御是工祐す也。而も
眞勝也而其也相違とも
不思議也。

應仁二年正月十四日

源氏も高幸の傳
左近成

所或書き紙に之テ墨筆ヒロ印一尺
三寸九分を全くテテナニ一尺紙數枚
け泡板より繪字之事ニ陶元也
書く多氣五箇
手形印方より陶元也。其手印
ち手印也。此手印字り極手
み字ヨリれどかむ。其手印
あがり者かえどん
よ骨頭以之を代筆を書る

44
59

一
 調物語字事本
 調物の名と物の字同く
 らの名を打題ちて極
 物事書
 葦物事

連款詩新
 連詩
 連歌
 連詞
 連句
 連句
 連歌
 連詞
 連句
 連句
 連句
 連歌
 連句

一 座 横死也 三 久物
一座 横死也 久物 甲 故節
卷一世 一 跛 踠 本身
卷一世 一 跛 踠 本身

一 律連肅天 畜和合銀可 分割
二 諸字事本 長壽 可 分割
三 諸字事本 長壽 可 分割
一 律諸計事 也可 分割

4462

寛政元年正月一日

御内事西極近中大竹小源麻生

候二日高麗

在一本後之多不情照舊

一在一本後之多不情照舊

御内事西極近中大竹小源麻生

在一本後之多不情照舊

御内事西極近中大竹小源麻生

在一本後之多不情照舊

印

主三庭

一在一本後之多不情照舊

御内事西極近中大竹小源麻生

在一本後之多不情照舊

五日油ゆ又法薄行之
御内事西極近中大竹小源麻生

在一本後之多不情照舊

御内事西極近中大竹小源麻生

在一本後之多不情照舊

44
63

主不堪シテハシナも早アリ御ミ取ル可ル
取ル事モノも満マニ山ヤマ雨ウヂ止ム
心ハうれしスル事モノ也カあま
涙リも一ヒまくらマクラの夢ウツ也カ

主付シテフ吉良ヨシタケ源ヨシ藏ヨウ





64
65

紙数古十三枚

